

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小53) 長崎市立(西山台小)学校

1 教育目標

心豊かでたくましく、夢に向かって挑戦できる子どもの育成
学びいっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい

2 学校経営方針

- 目指す子ども像
「学びいっぱい」.....進んで学び、自分の考えを表現できる子ども
「やさしさいっぱい」...礼儀正しく、思いやりのある子ども
「元気いっぱい」.....体を鍛え、粘り強い子ども
- 目指す教職員像
・児童に対する「教育愛」があふれる教職員
・仕事に対する「情熱と使命感」を抱く教職員
・児童・保護者・地域に「信頼される」教職員
- 目指す学校像
・子どもが通いたいと言える学校
・家庭・地域が通わせたい・支えたいと言える学校
・教職員が働きたいと言える学校

3 重点目標

- 心の教育の充実.....「環境づくり」「学級活動の実践」
- 学力向上.....「授業改善と学び方の定着」
- 生徒指導の充実.....「いじめ見逃し0%、解消率100%」「目標を意識した学校生活」
- 体力の向上.....「体育科の授業の充実」「外遊びの奨励」「保健指導・給食指導・健康教育の充実」
- 特別支援教育の充実...「子どもを取り残さない支援方法と体制の確立」
- 家庭・地域との連携...「積極的な情報発信」「対話のある関係づくり」
- 教職員の働き方改革...「業務改善」「働きがい」
- 危機管理に対する意識の向上...「自分の違和感を信じた行動」

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	95%	93%	92%	本校の教育目標について、教職員の肯定的評価の割合は 昨年度比で33%向上した。これは、児童および保護者に教育活動の意義をご理解いただき、学校と家庭が同じ方向を向いて取り組めたことが大きな要因であると分析している。また、業務改善の面では、教育DXの積極的な活用や定時退校の推進を通して、教職員の働き方改革を継続的に進めていく。これらの取り組みにより、教育の質向上と働きやすい職場環境の両立を図る。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	91%	89%	85%	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100%	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			62%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	88%	90%	92%	教職員による児童対応やいじめ防止の取り組みについては、教職員・児童・保護者の三者の間で意識の差がみられる。そこで今年度は、現職教育や服務規律全体会などの機会を活用し、児童理解を中心とした対応研修を実施してきた。いじめ防止の面においては、従来より毎月の生活アンケートの実施と、それに基づく児童面談を継続して行っている。また、校内での情報共有や組織的な対応体制の整備にも取り組んでいる。今後も研修機会を継続的に設けることで、児童の思いに寄り添い、共感をもって対応できるよう、心に響く生徒指導の実践をさらに推進していく。
		挨拶をよくしている	90%	89%	92%	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	85%	86%	92%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93%	77%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92%	79%	100%	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96%	90%	90%	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	86%	93%	100%	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95%	85%	92%	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	89%	88%	83%	「家庭学習の習慣化」については、単に義務的な学習課題を課すだけでなく、児童が学習の楽しさを実感できることが重要であると考え、そのためには、学習内容を理解する喜びや、他者と共に学ぶことの良さ、さらには問題を発見し、解決に至るまでの学習過程の価値を体験できることが不可欠である。こうした積み重ねにより、児童一人ひとりが主体的に学び続ける姿勢を育て、家庭学習が自然と習慣化されることを目指していく。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	96%	89%	100%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	93%	79%	92%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	84%	76%	100%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	95%			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	90%	89%	100%	本校では、食と健康に関する教育や、保護者・児童への継続的な啓発、そして体力向上に向けた取り組みを進めてきた。今回の結果は、こうした取組が着実に実を結びつつあることを示していると考えられる。基本的な生活習慣の定着については、保健便りの発行や学校保健委員会での情報発信などを通して、今後も継続的に啓発を行い、児童自らが生活習慣を身に付けられるよう支援していく。一方で、体力向上については課題が明確になってきているため、体育科学習のさらなる充実が必要である。児童が意欲的に運動へ取り組める環境づくりと指導の工夫を進め、体力向上を図っていく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	82%	94%	89%	
		体力向上に努めている	86%	84%	91%	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	86%	89%	92%	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	95%	90%	100%	学校ホームページの定期的な更新や、tetoruを活用した文書配信により、最新情報を確実に保護者へ届けることができた。これらの取り組みが、情報発信に対する評価向上につながったものと考えられる。地域連携については、地域団体やPTA等から行事参加の依頼があった際に、積極的に情報発信を行い、学校の取組を共有している。また、地域交流行事の計画を進めることで、地域との連携をさらに深め、互いに支え合う関係づくりを推進していく。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	86%	93%	100%	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	76%	91%	92%	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			92%	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	94%	88%	92%	運動場面付近の壁の塗装等により、校舎周辺の景観が良くなっていることが結果につながっている。しかし、校舎の老朽化は否めず、特に便所改修の要望が保護者から数件上がっているため、今後も育友会と協力したり、学校予算との兼ね合いを考えたりしながら整備に努める。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			85%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 成果
 - ・教育目標や「あはは運動」など、非認知能力の向上に関する取組について、教職員・児童・保護者の三者間で共通理解が図られ、子どもたちの成長を協働して支援できていること。
 - ・学力向上、健やかな体の育成、信頼される学校づくりに向けた方策について、概ね肯定的な評価が得られており、今後も継続的に取り組む必要があること。
- 課題・対策
 - ・児童の心に響く生徒指導の実現に向け、研修や組織的な対応を継続し、児童理解に基づく指導力の向上を図る。
 - ・働き方改革の推進として、教育DXの活用や定時退校の意識付けを行い、業務の効率化と教職員の負担軽減を図る。
 - ・学力向上に関わる「家庭学習の定着」や「将来の自立に向けた指導」について、校内研修や特別活動等を活用して、具体的な方策を講じる。
 - ・地域連携においては、地域やPTAから行事参加の依頼があった場合には積極的に学校からも情報発信を行ったり、地域交流行事を計画し、交流と協働をさらに深めていく。

6 学校関係者評価

- 業務改善
 - 提出文書など校務の効率化を図り、児童と触れ合う時間を多く確保してほしい。
- いじめ防止対策
 - 児童、保護者、教職員で評価の開きがある。そのため、保護者と話す機会を設けることを通して、保護者の思いを受け止める方法を模索し、重大な事態にならないようにすることが大切である。また、児童や保護者が相談しやすい窓口や雰囲気をつくるのが大切である。さらに、自分の思いを「イライラ」という一言で表現するのではなく、語ることができるようにスモールステップで語彙力を増やすことが大切である。
- 学習指導・教育課程
 - 他者とのコミュニケーションを増やすことを目的に、学び合いや高め合いの場面設定が大切である。授業時数の関係があるのは理解しているが、他校との合同学習も検討してほしい。また、語彙力や読解力に関する読書指導が大切であることを今後も指導続けてほしい。さらに、児童の向上心を高める必要性を感じる。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- いじめ防止対策
 - ・4月に希望制による保護者面談を実施する。
 - ・年度当初の児童集会や育友会総会で教育相談やいじめ相談の担当者(窓口)を周知する。
- 学習指導・教育課程
 - 本に親しむことを目的とした取組を今年度新たにに取り組んでいるので、今後も継続する。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。